

# 梶原町：「脱炭素は土佐の山間より～ゆすはら脱炭素の道～」

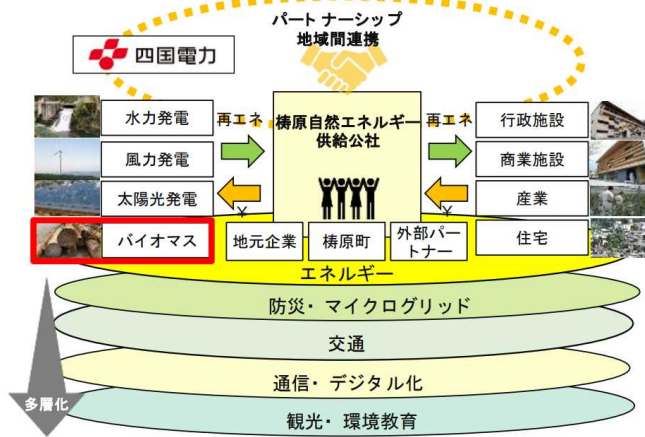
脱炭素先行地域の対象：総合庁舎周辺、雲の上の施設群、梶原町森林組合がある広野地区を東西に結ぶ範囲  
 主なエネルギー需要家：【民生】公共施設26施設、民間施設6施設、住宅27戸 【民生以外】工場等4施設

## 取組の全体像

送電網の空き容量不足を踏まえ、町の中心地と観光客が多く訪れる施設群を**自営線**で結んだ周辺エリアの官民施設について、屋根等に**PPA**による太陽光・蓄電池を導入するとともに、設立予定の**地域エネルギー公社を通じてエネルギーマネジメント**を行いながら新設の木質バイオマス発電や既設の太陽光・小水力発電の余剰電力を対象施設に供給し脱炭素化を図る。また、木質バイオマス発電による排熱供給に加え、木質ペレット工場増設等を行い**地域の雇用創出、農林業の活性化**等を図る。

### 1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- ① 建物屋根等へ新規に**太陽光発電(190kW)**の導入と**自家消費**を推進
- ② 送電網の空き容量不足から高圧の再エネ発電設備の系統連系が現時点では不可能なため、雲の上の施設に導入する木質バイオマス発電の電力(330kW)を自営線により対象施設に供給し**地域マイクログリッドを構築**
- ③ 設立する**地域エネルギー公社**を通じて、卒FIT太陽光発電、木質バイオマス発電の余剰電力、既存のFIT再エネ(風力2,000kW、小水力53kW)や四国電力所有の水力発電(10,380kW)等の電力を環境価値をつけて再エネ電力メニューとして供給



### 2. 民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

- ① 雲の上プール・温泉施設に対し、木質バイオマス発電から排熱を供給
- ② 公用車4台、集落活動センター活動車両6台、NPO法人「絆」が取り組む「公共交通空白地有償運送」のワンボックス車両2台、木質バイオマス発電施設の管理用車両1台にEVを導入

### 3. 取組により期待される主な効果

- ① 地域エネルギー公社設立や**地域マイクログリッド**の構築による新電力事業や送配電網の管理・メンテナンス等の**新たな雇用の創出**や防災力の強化
- ② 木質バイオマスの活用による計画的な森林整備や、森林の多面的機能(土砂災害防止、快適環境形成機能、文化機能等)による住民の暮らしの質の向上、**農林業の活性化による従事者の育成や新たな事業者の参入・地域の雇用の増加**

### 4. 主な取組のスケジュール

2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
地域エネルギー公社等の設立								
設立検討等				会社運営(再エネ電力供給)				
地域マイクログリッド事業								
自営線・蓄電システム設計等		施工		稼働開始				
太陽光発電導入								
自営線・蓄電システム設計等			導入設計	設置工事		稼働		
モビリティのEV化促進事業								
		車両導入	車両導入		稼働			
町内全域への普及手法の検討								